

# 水稻の生育状況と今後の管理対策（第4号）

平成30年6月29日  
新潟県農林水産部

## 〔要約〕

### コシヒカリ

- ◎ コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べて、葉数の進みは「並」、茎数は「やや多」の状況です。ただし、一部では、茎数の多いほ場が見られます。
- ◎ 中干しは、遅くても出穂1か月前までに終了し、徐々に飽水管理<sup>\*1</sup>に移行しましょう。

### つきあかり・ゆきん子舞・こしいぶき

- ◎ 穂肥（ほごえ）<sup>\*2</sup>の適期施用が収量を確保するポイントです。直ちに幼穂（ようすい）<sup>\*3</sup>を確認して、適期に穂肥を施用しましょう。

\*1 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと。

\*2 穂肥：穂が出る前に追肥すること。

\*3 幼穂：穂が出る前の生長途中の穂。

### 〔6月28日現在の生育〕

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「短」、茎数は「やや多」、葉数の進み及び葉色はいずれも「並」の状況です。
- 長岡市に設置した調査ほ場では、つきあかり、ゆきん子舞、こしいぶきの茎数は、指標値に比べ、それぞれ「少」、「並」、「やや多」の状況です。

### 〔今後の生育見込み〕

- 6月28日発表の1か月予報（6月30日から7月29日まで）によると、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みです。
- そのため、幼穂形成期及び出穂期ともに早まる可能性があります。

### 〔当面の管理対策〕

- 茎数が多いほ場は、田面に小ひびが入る程度よりもやや強めに中干しを実施しましょう。
- 中干しは、遅くても出穂の1か月前をめどに終了します。その後、発根促進や根の活力を維持するため浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行しましょう。
- つきあかり・ゆきん子舞・こしいぶきは、1回目の穂肥時期（出穂期25日前頃）が近づいています。直ちに幼穂を確認し、地域ごとの技術対策を参照して、適期に穂肥を施用しましょう。
- 病虫害防除は、発生予察情報を参考にして、適期に実施しましょう。特に、斑点米カメムシ類は、畦畔・農道を除草して密度の増加を抑えたいうえで、薬剤による防除を徹底しましょう。
- 農作業は気温の高い時間帯を避け、作業時は水分を適宜補給するなどして、熱中症事故を防止しましょう。

◎ 今後の管理対策発行予定日 7月11日・20日・26日・31日、8月21日、9月12日

## 〔補足資料〕

### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「短い」、茎数は「やや多」、葉数及び葉色はいずれも「並」の状況です（表1）。
- こしいぶきの茎数は「やや多」、ゆきん子舞は「並」、つきあかりは「少ない」状況です（表2、表3、表4）。

#### (1) コシヒカリ

表1 県内全域のコシヒカリ生育調査ほ調査結果（6月28日現在）

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	44 cm	52 cm	短	84%
茎数	499 本/m <sup>2</sup>	475 本/m <sup>2</sup>	やや多	105%
葉数	9.6 葉	9.9 葉	並	-0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	38.8	38.5	並	+0.3

注) 県内全域の生育調査ほデータの平均値、  
注四捨五入の関係で差は

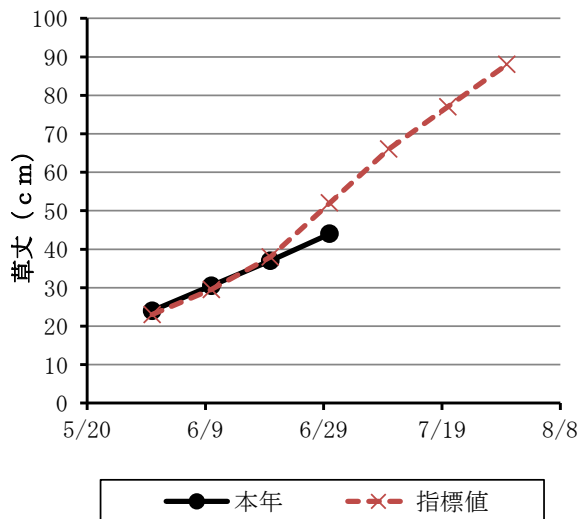


図1 コシヒカリの草丈の推移  
(県全体)

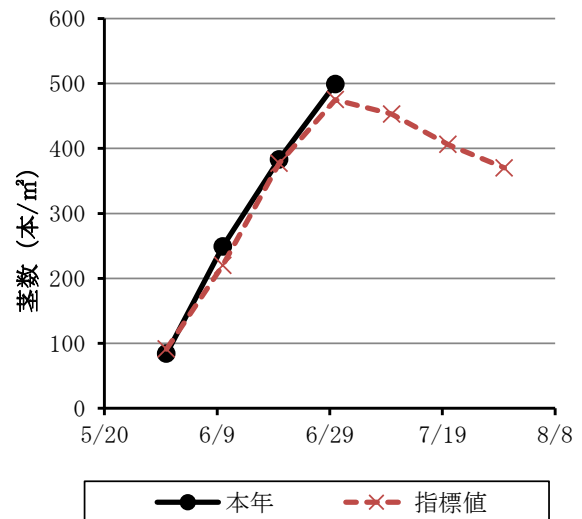


図2 コシヒカリの茎数の推移  
(県全体)

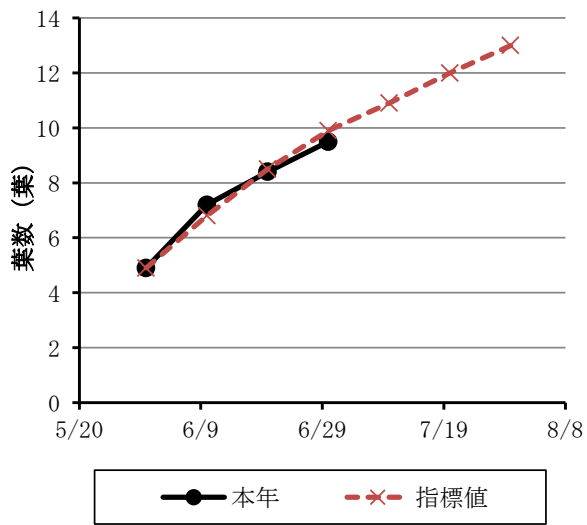


図3 コシヒカリの葉数の推移  
(県全体)

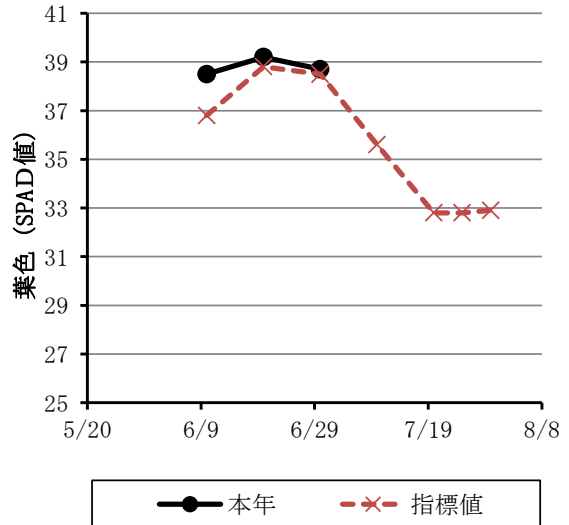


図4 コシヒカリの葉色の推移  
(県全体)

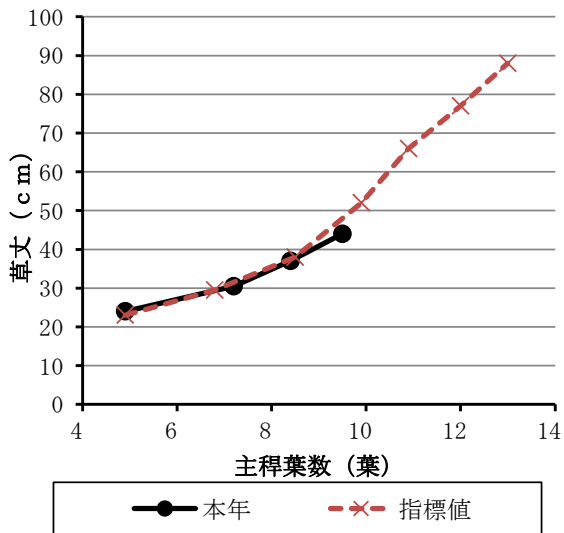


図5 コシヒカリの葉数と草丈  
(県全体)

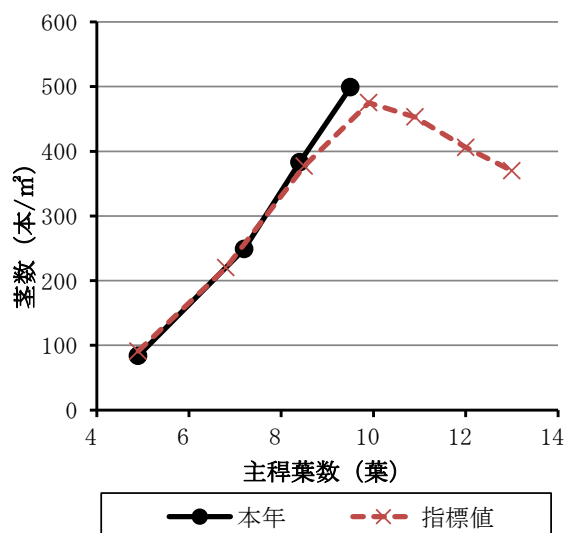


図6 コシヒカリの葉数と茎数  
(県全体)

(2) 新潟米管理対策推進員等によるコシヒカリの調査結果

○ 草丈は指標値に比べて短く、葉色はやや濃い（表2）。

表2 新潟米管理対策推進員等による調査結果(6月28日、コシヒカリ)

栽培法		項目	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県平均	同左指標値※ 比較
分 施 体 系	化学肥 料	草丈(cm)	42	44	46	42	44	-	43	85
		葉色	39.2	38.9	38.7	41.8	39.7	-	40.1	1.8
	5割減	草丈(cm)	44	43	45	43	43	38	43	85
		葉色	38.7	39.2	39.3	39.9	38.7	39.6	39.3	1.0
基 肥 一 発	化学肥 料	草丈(cm)	39	46	46	40	45	-	43	84
		葉色	39.7	40.2	40.0	39.9	40.3	-	40.0	1.7
	5割減	草丈(cm)	41	44	44	43	42	41	43	85
		葉色	39.0	38.6	38.9	41.3	40.7	40.8	39.0	0.7

注1：分施体系（基肥＋穂肥体系）、化学肥料（化学肥料使用量の低減率3割以下）、5割減（化学肥料使用量の低減率5割以上）、「※」は生育調査ほの指標値

注2：一部地域で欠測あり

注3：推進員の栽培方法の内訳は下表の通り（直は栽培は含まず）

栽培法		項目	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県計
分 施 体 系	化学肥 料	ほ場数	16	6	14	30	24	0	90
		地域割合(%)	25	7	14	55	40	0	23
	5割減	ほ場数	10	37	36	16	17	14	130
		地域割合(%)	15	44	37	29	28	70	34
基 肥 一 発	化学肥 料	ほ場数	18	6	6	4	14	0	48
		地域割合(%)	28	7	6	7	23	0	13
	5割減	ほ場数	21	36	42	5	4	5	113
		地域割合(%)	32	42	43	9	7	25	30

(3) つきあかり、ゆきん子舞、こしいぶき

表3 つきあかりの生育(調査日:6月28日)

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	53 cm	49 cm	やや長	108%
茎数	403 本/m <sup>2</sup>	520 本/m <sup>2</sup>	少	78%
葉数	9.8 葉	9.7 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	40.6	45.0	薄い	-4.4

注1) 化成肥料栽培。田植え5月8日、栽植密度は21.2株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 7.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

表4 ゆきん子舞の生育調査ほ調査結果(6月28日現在)

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	52 cm	65 cm	並	80%
茎数	632 本/m <sup>2</sup>	640 本/m <sup>2</sup>	並	99%
葉数	10.4 葉	10.2 葉	並	+0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	35.4	39.0	やや薄い	-3.6

注1) 化成肥料栽培。田植え5月1日、栽植密度は18.6株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 1.68kg/10a(前作枝豆)

注3) 長岡市高野町の生育調査ほデータ

表5 こしいぶきの生育(調査日:6月28日)

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	40 cm	48 cm	短	85%
茎数	627 本/m <sup>2</sup>	594 本/m <sup>2</sup>	やや多	106%
葉数	9.9 葉	10.0 葉	並	-0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	36.2	39.9	薄い	-3.7

注1) 化成肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度は19.6株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

## 2 ちりよく 地力窒素の発現状況

○ 6月20日～28日の日平均地温は平年より約0.3℃高く、この期間の窒素発現量は化学肥料区、堆肥区とも平年よりやや多い。移植からの窒素発現量も両区とも平年よりやや多く推移している（表6）。

表6 地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査） (mgN/100g)

調査日		5月10日 (初期値)	6月19日①	6月28日②	地力窒素発現量※ <sup>1</sup> (③=②-①)
化学肥料区	本年	3.3	5.1	5.7	0.6
	前年	3.1	4.9	5.0	0.1
	平年	2.3	3.8	4.1	0.3
堆肥施用区	本年	3.2	5.4	5.9	0.5
	前年	3.5	5.9	6.2	0.3
	平年	2.7	4.7	5.1	0.4

※1 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

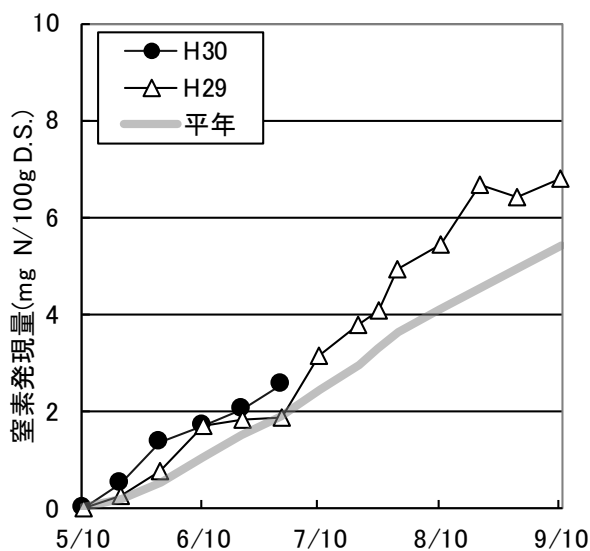


図7 地力窒素の発現推移  
(化肥区；初期値を0とした)

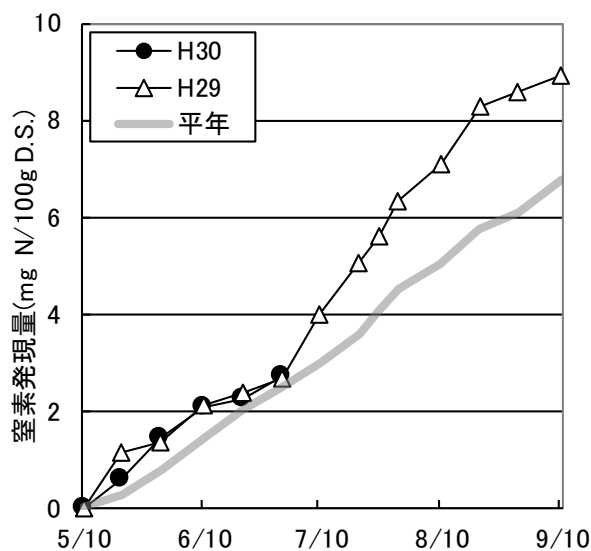


図8 地力窒素の発現推移  
(堆肥区；初期値を0とした)

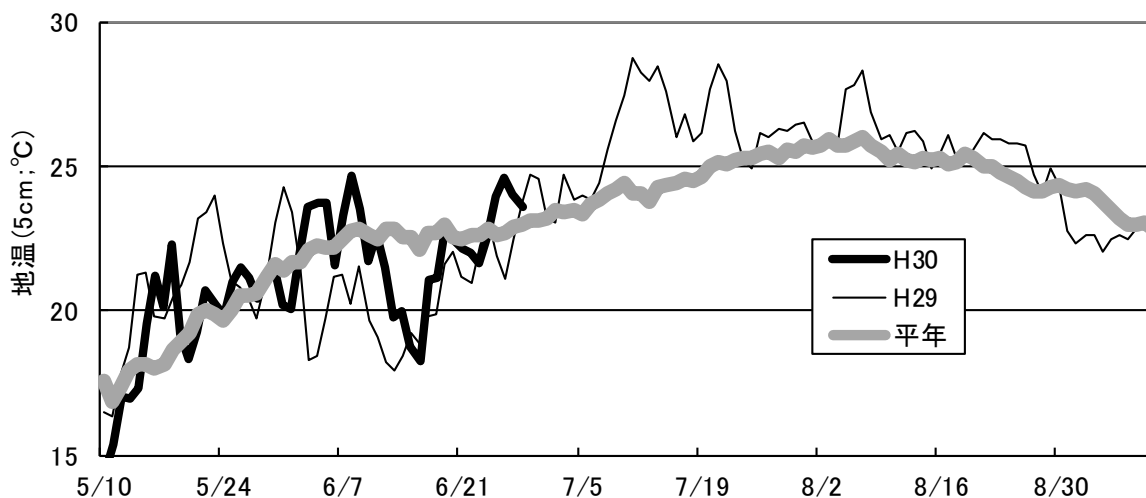


図9 地温(5cm)の推移